

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社 介護社		
事業所名	グループホーム助一みのかも		
所在地	美濃加茂市森山町5-23-3		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200393-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日が楽しく笑顔で過ごせるよう、個別リハビリ、日替りレクリエーション、作品作り、ボランティアさんの来訪等を通し変化のある生活を共に送っています。入所者も高齢化しており、日常の小さな変化に気づき担当医、看護師との連携を密にし、利用者ご家族の安心につながる様スタッフ一同お世話させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長期の利用で、重度の利用者が多く、健康管理には特に力を注いでいる。夜間の往診、24時間体制等、かかりつけ医や協力医を始め、地域の内科医、総合病院等との連携、協力体制を築いている。往診日に合わせ、運営推進会議を開催し、歯科医や歯科助手から口腔衛生等について学習する等、サービスの向上に活かしている。利用者一人ひとりの目標に沿ったリハビリテーションや学習療法を取り入れ、計画・実践表を各室の入口に掲げ、利用者と共に成果を確認することにより、意欲や向上心が高まり、健康増進につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様と共に「いつでも、どこでも、だれでも同じ援助・介助」を笑顔で個別に提供するを理念としており、急な見学の方、訪問の方にも笑顔で対応しています。	月のはじめの職員会議において、職員一人ひとりが、理念を実践できているかを振り返り、確認・共有している。地域の人々と日々交流しながら、笑顔の絶えない暮らしを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃活動に参加したり、毎週日曜日、施設周辺の清掃をし、地域の方と挨拶をし、時には立ち話をしたりする事もあり、又、野菜などの差し入れもあります。	地域の一員として、自治会の清掃活動等に参加している。日本舞踊やハーモニカ等、数多くのボランティアとの継続的な交流がある。隣人である音楽療法士が頻繁に訪れ、多様な療法プログラムを提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアでおみえになった方、「ちょっと他で聞いてきた」などの方々が、パンフレットを頂いていいですか？中を見学していただき、認知症の施設ということを説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、行政、包括、民生委員、地域代表、主治医、家族代表の方々の参加で、現状報告をしています。又、介護サービスについての問題点、現状対策など色々な観点から話し合いをしています。	内科医や歯科医の往診日に合わせて、会議を開催し、地域関係者や行政、家族等が参加している。出席した医師から健康や口腔に関する豆知識等を伝えてもらい、サービスの向上に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	美濃加茂市のサービスネットワーク会議の参加で、他の事業所の方と話しをしたり、情報の交換をし、困った事など話し、知恵を頂いたりしながら取り組んでいます。	地域包括支援センターからの依頼や、緊急入居に関する相談等、行政とホームは常に連携し、協力し合っている。市主催の会議では、情報を交換し、事業運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・勉強会を通して、拘束禁止の理解をしています。当ホームは、時間を決めて玄関をオープンにして、外気浴、花壇を散歩したりしています。	利用者一人ひとりの心身の状況を把握し、拘束のないケアを実践している。ベッドからの転倒防止では、代替方法を工夫している。玄関は、日中開放し、自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じ、職員は、理解に努めています。利用者間においても声掛け、見守り強化により、防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度については、外部研修を受けています。成年後見人制度も取り入れているので、職場内の勉強会でも取り上げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者のご家族に確認を取りながら、ご理解、納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見ポストを設置し、ご家族等の意見や要望を頂くようにしています。又、アンケートでも意見を頂いたり、家族会でも意見交換をするなど、随時運営に反映させています。	家族通信を活用し、意見・要望を尋ねている。また、面会時やアンケートでも意見を確認している。意見や要望は、職員会議で検討し、随時運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案等、スタッフ会議、勉強会などで意見交換を行い、反映させています。	職員会議と勉強会を併せて実施し、業務の見直し等、意見交換をしている。利用者に寄り添う時間を多くするため、夜勤者の業務に環境整備を組み入れること等を提案し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握し、職場環境、条件の整備に努め、職員が働きやすくなり、やりがいを感じられる環境づくりを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を積極的に受講し、その度受講した職員が中心となり、定期的に実地している勉強会で、研修内容を発表しています。又、職員間内でも学びたい内容を抽出し、勉強会を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の施設訪問、ネットワークなどでの交流を通じ、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・体験入所などをして頂き、優しく笑顔で対応し、時間を共有するなかで、本人に安心と信頼をもって頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	依頼の段階から本人・家族のお話を十分に聞き、今までの努力・苦労を労い、担当ケアマネからも情報を頂き、安心して頂けるような信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	頂いた情報を基に必要支援の検討・確認をし、その人らしい生活を通して頂けるよう適切な対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、利用者に寄り添い、本人の声を十分聞いてさしあげ、一緒に過ごしながらの見守りに心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信・電話で近況報告を行い、ホームの行事には家族の参加もお願いし絆を深めています。来訪の少ない家族には電話を入れ、訪問をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ家族にお連れ願ったり、本人の希望で電話をかけて頂いています。	兄弟や遠方の親戚、友人等の面会があり、一緒に、墓参、食事、美容院等に出かけている。職員は、家族や親戚の協力を得ながら関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩時、自立者が車イスの方を押して頂いたり、集団レクレーション時、会話がはずむよう利用者間の支援、支え合いができるような雰囲気作りをしています。又、利用者間のトラブルがないように気配りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の行事があるごとに、ご家族にお知らせをし、訪問や参加をして頂いています。又、利用者様が入院された後も病院にお見舞いに出掛け、情報を頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者様一人ひとりと向き合う時間を大切にし、会話をしながら気持ちを受け止め、職員間で情報を共有しながら利用者個々に合った支援を行っています。	利用者の仕草や表情から、今やりたいことや行きたいこと等を把握するようにしている。ユニット間に設置してあるソファーに座り、1対1で寄り添い、思い出話から、その人らしい暮らし方を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々生活を送る中で、これまで暮らしてみえた生活歴や趣味、大切にされている習慣などを利用者様本人や家族から随時伺いながら生活背景の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活状況を把握し、日常生活に応じたケアを行いながら、体調管理に努め、職員間でも情報を伝えあい、共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を送る中で、利用者様が問題となっている事、今後起こりうる課題は何かをスタッフ間で検討し、解決できるよう介護計画を作成し、プランに沿ったケア実践に努めています。	3ヶ月毎に、本人・家族から、介護計画作成に向けた意見や意向を聴く日を設けている。かかりつけ医や歯科医、職員の意見を加え、利用者の自立を支援し、その人らしく暮らせる計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様は、一人ひとりの課題、支援内容に沿った日々のケア状況を記録し、定期的なカンファレンスを開催しながら、職員間の情報共有を図り、適切な対策・支援がせきえるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生活を送る中で生じるニーズに応じて主治医、歯科医師の往診などの医療的支援・指導を受けています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さんに好みを聞きながら、毎日音楽療法、地域のボランティアさんに協力して頂き、共に楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回往診して頂き、家族の希望も相談し、適切な対応して頂き信頼関係を築いています。歯科についても同じように往診して頂いています。	かかりつけ医は24時間体制、夜間の往診も可能であり、利用者の医療支援体制が図られている。受診は原則家族が行うが、緊急時には、ホームが支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者には何か変化があれば、ケアマネジャーの看護師さんや管理者にすぐ伝え、必要があればすぐ受診するなどの対応をします。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が日頃より病院関係の方々とは情報交換し、治療法期間なども家族利用者と話し合いながら、安心して、治療できるよう必要時に備えた関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族・ケアマネジャーの看護師さん・管理者・日頃お世話になっている主治医の先生と相談し、真心こめてお世話していきます。	契約時に、常時、医療行為が必要になった場合に退居となることを説明し、同意を得ている。次の施設への手配等は家族と相談し、支援している。	重度化に至るには、様々なケースが考えられ、同意を得ていても、家族には少なからず不安があるため、段階的に話し合い、関係者で、常に共有することが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや毎月行っている勉強会の中で、ご利用者様の状況を把握し、体調の変化や事故が発生時の対応が出来る様、話し合い勉強をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急に備えて毎月1回防災訓練を昼夜問わず、災害時を想定し、慌てず安全に訓練を行っています。訓練後は反省会を行い、注意すべき事を話し合います。	災害に備え、落ち着いて避難できるよう、利用者と共に、毎月訓練している。運営推進会議で地域の協力を求めるとともに、近くの高校へも協力を依頼している。地域の被災者を含めた、最小の備蓄を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんそれぞれの性格により、言葉を選びながら声掛けし、尊厳を損ねないように時と場合を選んで対応。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない言葉かけや、対応をしている。自分で気づかないうちに相手を傷つけないように、常に対応を振り返り、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレク・リハを拒否された場合、無理強いないで対応、希望されたことが出来ない場合は、別の事をしてもらい、気分を害さないようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん方の希望には、出来る範囲で対応、都合が悪い時は時間をずらすなどして対応。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度出張理容を利用、利用者さんの要望を聞き、カットやパーマなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせ、普通食、きざみ食、極きざみ食の種類に分け、エンガードでとろみを追加し、嚥下しやすくして対応。	食材の下準備や食器拭き等、出来ることを職員と共に行っている。職員も同じテーブルで同じものを食べている。味付けの具合等を語り合ったり、好きな歌手の歌を聴きながら楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少なめな方には、声掛けやフレーバーを入れて飲みやすくして対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に実施。 自己にてやられる方には、見守りと磨き方の観察、介助する方には、やれる事はやってもらっている。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを把握して、声掛けしながら介助を行い、汚染がない時は、利用者様と共に喜んでいきます。	一人ひとりの能力や、パターンに合わせ、早めに誘導している。夜間もタイミングよく声を掛け、失敗を減らすようにし、おむつの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスが良いです。一日に二回午前と午後に体操ゲーム、散歩を行い楽しく参加していただきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所された時は、入浴を拒否していた利用者様も、いつの日かお風呂が大好きになり、楽しんで入浴ができています。	入浴は週2~3回、合間に足浴を行っている。利用者のペースに合わせ、ゆったりと語り合う時間を大切にしている。菖蒲、柚子等季節の風物も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、いつでも居室のベッドで休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr.から服薬が処方されると、副作用用法・用量についても教えていただき又、従い、服用前にも名前を呼んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをお願いすると、一所懸命やっけて下さいます。毎月の行事(音楽療法・誕生日会等)季節の行事(夏祭り・クリスマス会等)を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、畑の周りを散歩しています。利用者様と一緒にプランターに朝顔の種をまき、きれいに咲いた朝顔を外へ見に行っています。	中庭は広く、中央には大きな畑があり、その畑を一周するのが毎日の散歩コースとなっている。歩行困難者は、玄関先のベンチに座り、外気浴をしている。恒例の花見等の行楽にも出かけている。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が、所持・管理が難しいため、必要であれば家族に連絡しています。それができなければ、事務所の方で管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望があれば自由に掛けて頂いています。 手紙も、本人の希望があれば書いて頂けるよう、見守り支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニット間は、車椅子でも自由に行き来できます。外に出られない時は、各々居室の窓のカーテンを全開にして外の景観を眺めながら、ホーム内散歩をします。外の景色とホーム内の生け花で充分季節感を感じています。	リビングに加湿器を設置し、程良い温度も確保している。利用者の共同作品や季節の花を飾り、自由に座れるソファ等を適所に設置し、居心地良く暮らせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やロビーにも自由に行き来でき、移動の制限がないので思い思いに過ごして頂く事ができます。自己にて移動出来ない人もスタッフと一緒に2つのユニットを散歩が出来ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使っていたものを持ってきて頂いています。利用者の状況に合わせ、好みのものを置いたり、飾ったりして工夫しています。花なども飾っております。	持ち込んだ椅子やテレビ等を使いやすく配置し、写真や誕生日のプレゼント、庭先の花等を飾り、その人らしく暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、その人の写真や大きいネームプレートをかけたり、トイレも大きく表示しています。歩行器や杖は、使い慣れたものを使用させて頂いています。		